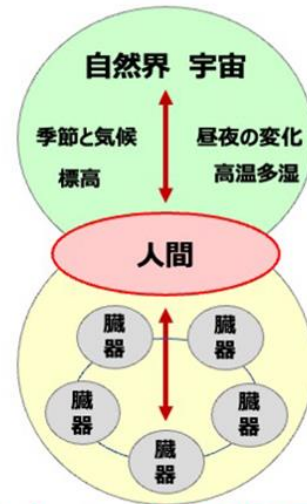


整体観 **すべては揃って、つながり 調和して、整体といます。**

また人体は、外界の自然界の一部で、自然界とも密接に繋がっています。

人間の身体は、
季節と気候、昼夜の変化、
標高や、高温多湿からの、影響を受け、
自然や宇宙と繋がって、
成り立っています。

その人間の五臓六腑も、
各々の臓器と密接に繋がり、
更に連携をして成り立っています。



つまり身体の外と内のふたつの調和がとれている事が重要だとの考え方です

平素は、弊社商品にお取り組み頂き、
まことに、ありがとうございます。
月間通信 10月号をお送り致しました。
何卒、よろしくお願い致します。

さて、先月号で『動的平衡』って福岡伸一の生命観を書いてみたが、あまり上手く書けなかった。自分では分かっているつもりでも、書いて伝えられなければ意味が無いので、少し補足をしたくなった。冒頭の表は弊社中澤が作成し、ホームページに UP している表だが、実は同じことを言っているのでこれを使ってみよう。そっくり同じ事ではないが、動的平衡は『時の流れ』で、上の表は『状態』を中心に説明している。

すべては揃って、つながり、調和する とは、見えるものも見えないものも、あるべき様に備わっていて、関連し合って互いに影響、補佐し合っているということです。ここでの『すべて』は、物と事柄等すべてです。

そして、それは私たちの身体の内も、外側の環境といわれるものもまったく同じく、あるべき様にあり、集合している状態は違っていても、いつでも交換可能なように質も同じであれば、その機能も働く必要があれば同じになるという訳です。従って、**人体は、外界の自然界の一部で、**とは一部でありながら全体と同等です。つまり、 $a=b$ $b=c$ ならば、 $a=c$ だと言っているようなもので、それぞれ構成している要素の質も、ひとが新たにそこに手を加えなければ同じなのです。

これらの要素は、見えるものも見えざるものもすべて物理法則で捉えられる物質だと言っている訳で、その物質が如何に働くかの決まり事も、亦同じ要因によって規定され、機能を果たして行き、それぞれは干渉し合い、また緩衝し、自転車が走っていないと転びやすいように、動いているからこそ調和が保たれているとも言えます。この要因を一番大きくまとめると自然の摂理となり、この理に拠ってすべては平衡しています。

地球は太陽の周りを回っていて、月は地球の周りを回っていますが、これはそれぞれの星自体の外に向かう遠心力と、内に向かう向心力の拮抗によって、つまりその差を重力と呼んでいると思うのですが、その差は常に一定では無く、僅かな差が生じることに依って公転し、また月も地球も太陽もそれぞれ自転している動きによって、先の自転車ではありませんが、動く事によって調和が保ちやすくなっていると考えられます。ビジネスで『絶えず変化していくものだけが生き残っていく』との言い方を聞いたことがあります、変化こそが生命線で、その変化は出鱈目に動いている訳ではなく、調和の方に向かって変化を続けています。つまり動いて行くということになり、そこに摂理が作り出した原理由来の法則があります。

私たちの身体の内部でも、同様の事が常に起こっています。私たちの身体は有限ですので、無限に近い自然界と物質の遣り取りをしていて、これを **自然界と密接に繋がっている** と表現しています。もちろん、同じ物というだけではなく、動く・働く原理も同じだという訳です。大きくは同じ要因によって動くなかで、私たちの身体の要素も自然界と一定期間で入れ替っていく事になっています。この入れ替っていく様子を福岡伸一はVideoで先月紹介したような動くイラストとしてまとめたのだと思います。そして、先月書いた会社案内の一節のなか、『食は環境そのもの』と書いた動機も、この事実を説明したかったのだと記憶しています。

何だか同じことを繰り返し説明しているようですが、ひとつの自然の摂理という縛りの中で、動きとしていろいろな場面が移り変わって行き、そのそれぞれの構成要素もまた同じだとの二重の構造を持っている訳です。ここで少し考えてみると、つまり私という存在の境界線を取っ払ってみると、過去の自分の要素は時間軸の後ろに流れて行き、明日の自分の構成要素は時間軸の前に広がっている事になります。そしてそれは私だけではなく、あなたも、あなたも、みんな同じなのです。その最小単位を最近では量子と呼んでいるのだと思います。この量子の考え方や仕組みが、私たちが大切に使っているパソコンやスマホに利用されています。

目の前にいない人と、スマートフォンで会話ができるのです。昔の電話は線で繋がっていて、その線が切れると会話も断たれました。無線って線は一体何なのでしょう。空間に存在する目に見えない物をアンテナで増幅して、それをレシーバーでキャッチしているのでしょうか。その様に考え、先の自分と自分以外の境界線を取っ払っていると、ひとが発する無意識・無言の気も、別の人が受信出来て当然です。

電波というように、その人の考えや、置かれている状況は波の形をして空間にその人から放たれています。それは言語の形で放たれている訳ではなく、一種の塊としてその人の傍に色濃く放たれている訳だから、その塊についてかつて自分が同じように一度でも体感したことのある内容であれば、言語化して表現する事は可能です。それは何も人に限る事ではなく、あらゆる場にもあらゆるものによって発せられており、初めての空間に自分が放り込まれた時、瞬時に自分が落ち着ける場所をみなさん見出したりしている筈です。

波紋を広げるという事象が存在するように、ひとつの出来事を最大効果が発揮されるように考えてみる事は、ビジネスにとってまことに有効です。先日も、スーパーマーケットの方と、初めての農家に出掛けました。その農家は東京青果に普段出荷されているのですが、自らが決めた価格で出荷できる受け入れ先を探しているとのことでした。普段、相場通りの売価設定で販売されているなかに、相場に支配されない価格は、その当該作物が持つ特別な価値を表現しないと消費者の方は購入されません。つまり鮮度と単価の多寡以外の価値が認められる必要があります。という事は販売される方々が、その価値を理解出来なければ、その価値はあっても無くても同じという事になります。そこで、作物の価値について学ぶ機会を企業で設けられれば、作物を販売して得る価値以上に価値を創出できると思います。この価値の創出こそがビジネスで、波紋が広がるように増幅し、増大し、有史此の方経済を発展させてきたのではないかと思う次第です。

有限会社アルファー 吉田清一郎